

976-2493

極東國際宣戰裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫 其他

宣戰供述書

供述者

鹿兒島 虎雄

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通り宣戰ヲ爲シタル上次ノ
如ク供述致シマス

私ハ鹿兒島虎雄デアリマス、私ハ昭和十四年六月（一九三九年）ヨリ昭和十八年（一九四三年）六月迄滿洲國宮内府次長デアリマシタ。其後滿洲國參議府參議ヲ勤メマシタ。宮内府次長トシテ私ハ滿洲國皇帝ノ側近ニ居リマシタ。ソシテ特ニ建國神廟ノ創建ノ事情ニ就キヨク承知シテ居リマス夫レニ就キ茲ニ陳述致シマス。

建國神廟ノ創建ガ考慮サレテキタトキ、滿洲國ニ天照大神ヲオ祭リスルト云フ考ヘハ皇帝ニヨツテ發案セラレマシタ。佐ツテ昭和十五年（一九四〇年）三月私ト關東軍ノ吉岡中將トハ天照大神ノ御遷代ヲ滿洲國ニ御移シ申上ゲルコトニ付オテ天皇陛下ノ御裁可ヲ經ル後ニ日本政府ト日本宮内省ニ依頼スル爲東京ニ出張セシメラレマシタ。然シ此ノ皇帝ノ強キ希望ハ種々討議ノ結果、結局天照大神ヲ滿洲國ノ主祭神トスル申込ハ同意サレマシタガ、日本ノ天皇陛下ガ此ノ計畫ニ何等カノ役割ヲ演ゼラレ度キ旨ノ申込ハ謝絶セラレルコトニナツタノデアリマス。

考慮ノ末御鏡ヲ滿洲國デ調整シ滿洲國皇帝ガ訪日ノ際ニ伊勢大神宮ニ持參シ神樂殿ニ奉安シ神樂ヲ奏シ之ヲ建國神廟ノ御遷代トシテ持チ歸ラレル

コトニ定メラレマシタ。此ノ事ハソノ後實行サレマシタ。更ニ又天皇陛下ガ皇帝ニ御贈進ノ品ノ中カラ、皇帝ガ神廟ノ神寶トスベキモノヲ撰擇スルコト、定リマシタ。之ニ依ツテ天皇陛下ガ御贈進ニナツタ刀ガ後ニ神寶トシテ用ヒラレマシタ。日本側カラ我々ニ神道ヤ天照大神ヤ神廟ノ神寶ヲ強制シタト云フ問題ハアリマセン。ソレヨリハ寧ロ日本側ガ斯カル專柄ヲ爲スノニ同意シタト云フノハ滿洲國官邊ノ強キ提議ニ依ルモノデアリマシタ。

皇帝ガ歸國ノ後ニ二ツノ神社ガ創建セラレマシタ。ソノ第一ハ建國神廟デアリ宮廷内ニ建立セラレマシタ。ソシテ之ハ専ラ皇室用ノモノデアリマシタ。一般大衆ハ神社ニ入ルコトハ許サレマセンデシタ。而シア之ハ皇帝丈ガ奉齋セラレルノニ用ヒラレマシタ。皇帝ハ佛敎徒デアリマシタガ、建國神廟ニ對スル崇敬ハ祖先崇拜ノ一形式ト考ヘ深イ尊敬ノ念ヲ以テ崇拜シテ居リマシタ。例ヘバ皇帝ハ毎月一日ニ行ハレル小祭ニハ儀式上ニハ御使ノ代拜デヨイノデアリマスガ自カラ出席サレマシタ。皇帝ハ神廟ニ參拜サレルトキニハ祭文ヲ自ラ書カレマシタ。嚴寒ノ候ニ於テモ參拜ノ際ニハ外

套ヲ着ルコトヲ肯ンジラレマセンデシタ。鳥居ノ建立ガ計畫セラレタトキハ、私室カラ充分見エル程ノ大キサニ作ルコトヲ主張サレタノデ、神廟自体ヨリモ不調和ニ大キイ鳥居ガ作ラレマシタ。

神道ハ儀式ノ下ニ建テラレタ他ノ神社ハ新京ノ建國忠靈廟デアリマス。之ハ東京ノ靖國神社ヲ象ツタモノデ戰死者ノ記念ノ爲ノモノデアリマス。祭祀府ハ此ノ二ツノ神社丈ヲ管掌スル爲ニ作ラレタモノデアリマス。

滿洲國ノ軍隊及ビ一般官吏ガ神社ヲ建立シ且崇敬スルコトヲ強制セラレタコト、神道ニ對シテ不敬ヲ働イタ者ニ對シテ一年以上ノ懲役ガ課セラレタト云フコト、又滿洲國ノ住民ガ日本ノ天皇ニ對スル尊敬ヲ強ヒラレタト云フコトニ就イテノ元滿洲國皇帝ノ言葉ハ全ク事實ノ基礎ヲ持タヌモノデアリマス。

神道ヲ國教トシタリ國民全般或ヒハ官吏ヤ其他ノ人々ニ歸依スルコトヲ強制スルコトハ企テラレマセンデシタ。建國神廟創建ノトキニモ又其他ノトキニモ信仰ノ自由ヲ束縛スル法律ハ作ラレテ居リマセン。滿洲國ニ於ケル信仰ハ完全ニ自由デアリマシタ。皇室自身又政府ノ高官連ハ佛教徒カ道教徒デアリマシタ。

Def Loc No. 976

死ンダ皇帝ノ貴人ノ葬式ハ佛式デ出サレマシタ。張口務總埋ハ佛舍利ヲ
而洲口ニ迎ヘテ寺院ヲ立以シマシタ。

昭和二十二年（一九四七年）四月三日於東京

供述者

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明
シマス

同日 於東京

立會人 小野喜作

Def Loc No. 976

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ秘祕セズ又何事ヲモ附加セザルコト
ヲ誓フ

宣
誓
書

(署名捺印)

鹿
兒
島
虎
雄

6